

輝

国際協力で新しい人生を

シニア海外ボランティアでマレーシアに派遣

大坪 和雄さん（三好氏）

近

年、開発途上国では工業技術や農村・地域開発、教育などさまざまな分野において、優れた技術や知識、豊かな経験を持つ中高年齢層の活躍が求められています。こうした中、開発途上国の開発に協力したいという意志のある人を支援するため、平成2年に外務省と国際協力事業団（JICA）がシニア海外ボランティア事業を開始。これまで多くの人たちが、さまざまな国の発展に協力してきました。今回は、このシニア海外ボランティアの一人としてマレーシアに派遣される大坪和雄さんをご紹介します。

大坪さんがシニア海外ボランティアに応募したのは昨年10月。それまで勤めていた会社での「海外事業経験を生かしたい」と考え、参加を決めたそうです。「24歳で入社して33年間。そ



▶▶▶プロフィール

昭和19年4月21日生まれ。北海道大学農学部農業工学科卒。イランやエジプト、タイなどに駐在し、主に水路施設の設計・施工監理を担当した経験がある。趣味は囲碁とスキューバダイビング。

国際協力事業団(Japan International Cooperation Agency): 昭和49年設立。開発途上地域などの経済および社会の発展に寄与し、国際協力の促進を目的とした特殊法人。

のほとんどを海外開発事業に費やしました。わたしが携わったのは、河川や農業用かんがい用水などの整備がほとんど。何の設備もない河川にかんがい設備を整備することは至難の業でしたが、やりがいのある仕事ばかりでした。今回ボランティアに応募したのは、今まで培ってきた技術や経験を生かすことができればと思ったからです。これからは新しく人生を出発させるつもりで、国際協力に努めたいと思います」と笑顔で話します。

大坪さんのマレーシア派遣は4月から平成17年3月までの2年間。水質改善など河川環境保全を目的とした総合計画の策定や護岸工事など洪水対策をふまえた河川管理の方法、また河川管理における住民参加の啓発などについて助言や指導を行うのが仕事です。

この仕事では、例えば水質検査の仕方や河岸補強の仕方などの基本的な方法だけでなく、水質改善策や洪水対策といった河川整備の応用的なことまで、広い範囲での知識が必要となります。さらに河川環境保全のために地域住民が何をすべきかといった、住民参加型の施策も考えるのだそうです。「今までの仕事はどれも河川改善のための整備、いわば技術を生かした現場仕事ばかりだったので、このような施策的な仕事をするのは初めてです。どうしたら現地の住民に『川をきれいにする』という意識を持ってもらうのか。さまざまな提案を出し、試行錯誤することになるでしょう。実はそれが今回の派遣で何よりの楽しみなんです。自分の知る技術を新しい方法で活用し、少しでも河川環境の保全に役立てることができれば」と大坪さんは瞳を輝かせます。

これから2年間、健康に気をつけて河川整備の活動に励んでいってくださいね。



みつけたみよしの
はつらつさん

大切なのは
「やってみよう」という気持ち

渡邊 清俊さん（上ヶ池）

「毎日何だかんだと出掛けるので、家にいることがほとんどないんですよ」と笑顔で話す渡邊さん。健康の秘けつを伺うと「健康には何といても運動が一番。この年齢になってくると体を動かすことをあきらめてしまいがちですが『ちょっと無理かな』と思うことに挑戦する『やってみよう』という前向きな気持ちで大切にして体を動かすようにしています」とこりこり。2カ月ほど前に腰を痛めてしまった渡邊さんは、現在足腰のリハビリに奮闘中。毎日無理をしすぎない程度の予定を立てて出掛けることで、運動の代わりにしているそうです。「今は用事を済ませるだけです。徐々に動く機会を増やしていくつもりです。青空の下、外の空気をたくさん吸って芝生の上をはたして散歩する。そんな日があるのが今から待ち遠しいですね。これからも前向きな姿勢を大切にして、元気に活躍してくださいね。」

▶▶▶プロフィール

昭和8年12月23日生まれの69歳。平成14・15年度老人クラブ連合会上ヶ池支部の支部長を務める。趣味は彫刻とパソコン。最近は料理することに興味を持ち、現在なべ料理に挑戦中。今後は足腰のリハビリも兼ねて、グラウンドゴルフなどの運動を始めていきたいと意欲的。



みよしっ子
みよしっ子

三好中学校

カヌー部

三好中学校のカヌー部を紹介します。顧問の石口智先生とキャプテンの花木康徳君にお話を伺いました。

新年度を迎え、気持ち新たに練習へ向かうカヌー部員たち。船の準備を整えて、次々に三好池へこぎ出していきます。

「僕たちカヌー部の目標は、7月末に行われる全国大会に出場すること。これからも部員同士で声を掛け合い、励まし合いながら練習に臨み、全国を目指したいです」と花木君は力強く話します。

石口先生も「冬の間は船には乗らず、筋力トレーニングが中心だったので、今は体の感覚を戻すためにも、8キロメートルほどの長距離をこぐ練習をしています。カヌーはとにかく体力と根気が大切。長距離をこぐ中で持久力・忍耐力を養い、大会本番では部員それぞれが自分の持つ最大限の力を発揮してほしいですね」と熱いエールを送ります。

新一年生に向けて花木君は「カヌーは水の上という限られた場所だからこそ、貴重な体験ができるスポーツです。新一年生の皆さん、カヌー競技を楽しみながら、ぼくたちと一緒に全国を目指しませんか」と呼び掛けていました。

